

院外広報誌「ふれあいひろば」が新しく生まれ変わりました！

愛仁会リハビリテーション病院 広報誌

あいリハ plus

再びその人らしい生活に



冬号
2025.1
vol.111

特集 リハビリ最前線

vol.3 在宅支援



vol.3 在宅支援～再びその人らしい生活に～

愛仁会リハビリテーション病院では、365日途切れのないリハビリテーションを行うことにより、少しでも早くよりよい状態で在宅復帰できるよう支援を行っています。また、退院後は住み慣れた地域で、いつまでもその人らしい生活を送っていただけるよう、在宅支援部門として愛仁会高槻在宅サービスセンターを併設(当院3階)し、引き続きサポートしています。今回は、愛仁会高槻在宅サービスセンターが取り組む、在宅復帰された患者さんへの在宅支援について、具体的な事例も交えながらご紹介します。



愛仁会リハビリテーション病院

愛仁会高槻在宅サービスセンター

ケアプランセンター

利用者さんが住み慣れた地域で出来る限り自立した生活が送れるよう、ケアマネジャーが定期的にご自宅を訪問し、利用者さんの状況や状態を確認した上で、ケアプラン(居宅サービス計画書)を作成します。また、自治体や医療機関、サービス事業所とも調整を行いながら、利用者さんが適切なサービスを受けるためのサポートを行います。

ケアプラン科
志場幸子 科長



訪問看護ステーション (訪問看護)

利用者さんが住み慣れたお家に戻られてからも、安心して日常生活を送ることができるよう、体調管理や療養指導、医療的措置などを行います。利用者さんがご自宅で感じる思ってもみなかった不安やご家族の介護不安などにも対応し、在宅療養を継続できるようお力添えさせていただきます。

訪問看護科
朝日由岐子 主任



訪問看護ステーション (訪問リハビリ)

お子さんから高齢者まで、利用者さんがご自宅で生き生きと過ごせるよう、セラピスト(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士)がご自宅を訪問し、利用者さんの状態に合わせた基本動作や生活動作の練習、食事環境や住環境の整備などを行います。また、利用者さんが抱く不安に耳を傾けながら、日々の過ごし方における専門的なアドバイスも行っています。

訪問リハビリテーション科
塚本賢司 科長



ヘルパーステーション (訪問介護)

訪問介護員(ホームヘルパー)が介護を必要とする方のご自宅を訪問し、身体介護(食事、入浴、排泄などの直接的な介助)、生活援助(掃除、洗濯、調理などの日常生活の支援)、外出支援(通院や買い物などの移動支援)などを行います。また、訪問した際には、体調や服薬の確認など健康状態の把握にも努めています。

ヘルパー科
植村聡明 主任



愛仁会高槻在宅サービスセンター
森田 真由美 センター長

住み慣れた地域で、いつまでもその人らしく

愛仁会高槻在宅サービスセンターは、1998年2月に開設された施設です。ケアプラン、訪問看護、訪問リハビリテーション・訪問介護の4つの部門を有しており、訪問事業を行う施設としては大型施設となっています。

サービス提供地域は、高槻市・茨木市・三島郡島本町と広域にわたり、対象は小児から看取りまでと年齢層も幅広く、特に小児に対応できるところが当センターの強みです。

在宅における療養生活を支援するにあたっては、利用者さんの生活を重視し、個別性を尊重して立案した安全・安心なケアプランを基に、看護・介護・リハビリテーションを提供します。また、関係市町村や地域の医療・保健・福祉サービスと密接な連携をとることで、地域に密着したサービスを提供しています。どうぞ、安心してご利用ください。

次ページでは
各部門が提供するサービスについて、
具体的な事例を用いながら、
詳しくご紹介していきます。

退院後における在宅支援について ～Aさん(70才男性)の事例～

前号では、脳梗塞を発症後、当院で療養されていたAさんの「入院から退院までの流れ」をご紹介しました。今号では、ご自宅に戻られたAさんがどのようなサービスを受けられ、安心して安全な在宅生活を送られているのかをご紹介します。

Aさんは、右片麻痺や嚥下障害は残るものの、入院時の目標であった「杖歩行ができるようになり、夫婦二人で暮らす自宅に戻る」を達成され、ご自宅へと退院されました。「近くに住む孫と外食を楽しみたい」という新たな目標を掲げ、ご自宅でもリハビリを頑張りたいというAさんの思いが叶えられるよう、引き続きサポートしていきます。



ケアプランセンター

Aさんが「お孫さんと外食したい」という目標に向かい、引き続き歩行能力や嚥下機能の向上を図っていけるよう、訪問リハビリを利用したリハビリの継続を提案しました。また、ベッドからの立ち上がりやトイレ・浴室などへの移動が安全に行えるよう、福祉用具専門相談員と一緒に手すりの取り付けなどについても提案しました。これらの提案については、Aさんや奥さまの意向を確認した上で、ケアプランに組み込み、支援しています。



訪問看護ステーション(訪問看護)

脳梗塞後、退院されたAさんに再梗塞などの症状が出ていないか観察しています。また、脳梗塞の原因となる高血圧などの生活習慣病の見直しを図れるよう一緒に取り組んでいます。現在、Aさんは正常範囲内の血圧を保ち、健康状態は良好ではありますが、奥さまには今後に備え、Aさんに「脱力やしびれ」「うまく話せない」「視野が狭まる」などの症状が出た時は、すぐに報告していただくようお願いしています。



訪問看護ステーション(訪問リハビリ)

Aさんが不安なく安全に生活できるよう、退院時の状態や自宅環境に応じたリハビリを提供しています。移動面では、理学療法士が屋内外での歩行や段差昇降、車の乗降練習を行っています。食事面では、作業療法士が手の運動やお箸の練習を行い、言語聴覚士が顔の体操や飲み込みの練習を行っています。



現在、Aさんは杖について奥さまと散歩や買い物にも行けるようになり、ご自宅では手すりを使い、杖なしで移動できるようになりました。

ヘルプーステーション(訪問介護)

奥さまがおられるAさんの場合、介護保険制度を利用した家事等の支援はできないため、食事や入浴時の介助といった身体介護面で、奥さまの負担を軽減できるよう支援しています。また、かかりつけ医への通院に不安があるとおっしゃられるAさんが不安なく通院できるよう、訪問リハビリスタッフとも連携を図りながら、安全に付き添う介助を行いました。現在はその不安も解消され、奥さまとともに外出される機会も多くなりました。



Aさんが安心して
お孫さんと外食に出かけられるよう、
これからも相互に連携を図りながら
支援していきます。

次号のテーマは
「疾患別のリハビリテーション -脳卒中の事例-」
です。



装具外来のご案内

次のような方はおられますか？

- 使用中の補装具が合わなくなってきた
- 使用中の補装具に不具合がある
- 補装具を新たに作成したい
- 補装具に関して聞きたいことがある
- 今の補装具が合っているのか確認したいなど



脳卒中片麻痺などの患者さんが日常生活で補装具を使用されている例は少なくありません。補装具は身体機能や生活環境の変化に伴い不適合となったり、補装具自体の劣化・破損が生じることがあります。補装具を不適合のまま使用し続けると、キズや痛みが生じたり、歩行が不安定になったりします。

装具外来では、リハビリテーション科専門医・理学療法士・義肢装具士が合同で患者さんの身体機能を確認し、適切な補装具をご提案したり、補装具の修理や再作成を行っています。

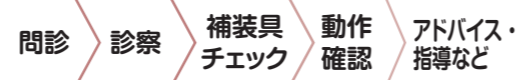
在宅生活において補装具の作成が必要な方や作成から年数が経過しメンテナンスが必要な方がいらっしゃいましたら、当外来へ一度ご相談ください。

診療日時

毎週 月曜日 13:30 ~ 15:00
毎週 木曜日 13:00 ~ 15:00
※月・木とも祝日は除きます

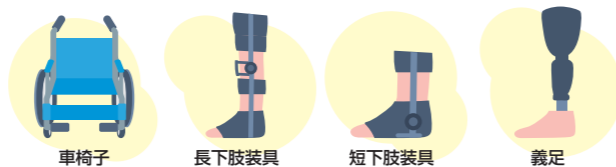


受診の流れ



補装具とは

身体の欠損又は損なわれた身体機能を補完または代替し、かつ長期間にわたり継続して使用される用具で、具体的には車椅子や下肢装具、義足、義手などです。



補装具に関するご相談・ご予約はこちらまで

愛仁会リハビリテーション病院

072-683-1212

「装具外来の予約」
とお伝えください。

ドクターダイアリー vol.3

副院長 福田 和浩 先生

息抜きや趣味についてお話しただくこのコーナー。今回は副院長の福田和浩先生です。



先日、20年ぶりに鶴見緑地のコスモス畑に出かけました。1年前に我が家に迎え入れたワンコを伴って…はじめての場所に震えてビクビクしていましたが、たくさんの散歩仲間をみて安心したのか急に吠えてはやくおろせと言わんばかりに元気に歩き回っていました。



最近は遅い日の出や寒さで朝の散歩もさぼりがちなので

久しぶりの冒険になったことでしょう。

コスモス畑は翌日から来年のGWにむけて寒い冬を乗り越えるチューリップの球根にいっせいに植え替えるそうです。

コスモスの花言葉は調和です。花の色でも異なるようで、赤は調和や愛情、ピンクは純潔、白は優美だそうです。

寒くなる時期は自身の身体を管理して心と身体の調和を大切にしたいものですね。私もストレスを減らすうえで遅寝の生活習慣をなおさなくては…

管理栄養士に聞く！ 冬本番！食事の工夫で 免疫力をアップして 寒い季節を乗り切ろう

栄養管理科 | 上田 美智子 主任

インフルエンザなどの感染症が流行する季節になりました。感染症予防として、基本的な手洗い、うがいでなく、免疫力を高めることで冬に負けない体づくりをしましょう。

免疫力を高めるには、免疫細胞の材料となる大豆、肉、魚、卵などのたんぱく質を摂ることが必要です。ビタミン群の豊富な野菜や果物は、抗酸化作用が強く、免疫機能を高めます。また、免疫細胞の約70%が腸に存在しているため、腸内環境を整えることで免疫力アップにつながります。きのこや海藻類に多く含まれる食物繊維や、乳製品、発酵食品を摂ることで腸の動きを活発にし、善玉菌を増やすことで腸内環境が整います。

これらの食材を効率よく摂取するためには、1日3食しっかり食べること、いろいろな食材を組み合わせることが大切です。キーワードは「さあにぎやかにいただく」です。



「さあにぎやかにいただく」は、東京都健康長寿センター研究所が開発した食品摂取多様性スコアを構成する10の食品群の頭文字をとったもので、「ロコモチャレンジ」推進協議会が考案した合言葉です。

この10項目の食材から、7項目以上を毎日食べることを目標にしてみてください。

食事面だけでなく、十分な睡眠をとることや適度な運動も免疫力アップに効果的です。取り組める内容から実践して、元気に冬を過ごしましょう。

※過剰に摂取することで効果が増進されるものではありませんので、摂りすぎにはご注意ください。

阪急高槻市駅に病院広告を掲出しています!



阪急高槻市駅の改札内に愛仁会リハビリテーション病院と高槻病院の広告を掲出しています。大阪方面から来られた方は、エスカレーターを降りたところにご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

また、JR高槻駅にも広告を掲出予定ですので、掲出されました際には、こちらもぜひご覧ください。



ラジオ放送のご案内



社会医療法人愛仁会では、毎週土曜のお昼(12時～12時15分)にラジオ大阪OBCで「魅力あふれる医療と介護」を放送しています。愛仁会グループの職員が現場で感じていることを交えながら、医療や介護をわかりやすく解説します!

3月の放送には、当院の松岡美保子先生が出演し、リハビリをテーマにお伝えします。ぜひお聞きください。



▶ラジオ大阪公式サイト

radiko▶

(ライブ機能・見逃し配信)



健康栄養教室のご案内

- 開催テーマ 認知症予防と食事(全2回)
- 開催日 1月30日(木) 2月20日(木)
- 開催時間 10:00 ~ 11:00
- 開催場所 当院3階「愛仁会ふれあい広場」

一般の方を対象に健康栄養教室を開催しています。1月、2月のテーマは「認知症予防と食事」です。1月は認知症の基本的なお話と脳のトレーニングについて、2月は腸と認知症の関係について、認知症専門の認定看護師と管理栄養士よりお話しします。是非お気軽にご参加ください。

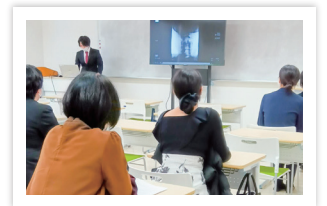
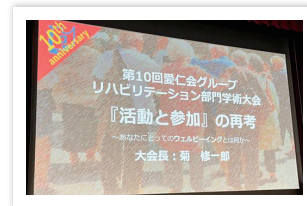


▲詳細はこちら

第10回 愛仁会グループ リハビリテーション部門 学術大会 開催報告

12月8日(日)に愛仁会グループリハビリテーション部門学術大会を開催しました。第10回目となる今回は、「活動と参加の再考～あなたにとってのウェルビーイングとは何か～」をテーマに、基調講演やシンポジウム、能登半島地震現地支援報告、作業療法士・言語聴覚士の症例報告会、国際事業・公的保険外リハビリテーション事業の発表と盛りだくさんの内容で行いました。

当日は療法士だけでなく、さまざまな職種の方や養成校の学生など、180名の方にご参加いただき、とても有意義な学会となりました。



編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈りします。本年第1号のあいりハplus表紙を飾るのは在宅支援部門の皆さんです!表紙撮影のメイキングビデオを撮っておけばよかったと思うほど、楽しい撮影となりました!誌面を通して、和気あいあいとした雰囲気とチームワークの良さを感じていただけたら嬉しく思います。

今年も院内にあふれるたくさんの笑顔とともに、当院の魅力をお伝えしてまいりたいと思いますので、引き続き、あいりハplusをご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

広報室 加藤 友恵

アンケートにご協力ください!



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏地域リハビリテーション地域支援センター

〒569-1116 大阪府高槻市白梅町5-7 TEL 072-683-1212

<https://www.aijinkai.or.jp/reha/>



ホームページ



Instagram



フェイスブック



読者アンケート